



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 「負の遺産」に求められる観光客の価値視点：中国・唐山震災遺跡群を事例として                                             |
| Author(s)        | 王, 金偉                                                                             |
| Citation         | CATS 叢書, 11, 281-289                                                              |
| Issue Date       | 2017-03-07                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/66665">https://hdl.handle.net/2115/66665</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | CATS11_37.pdf                                                                     |



# 「負の遺産」に求められる観光客の価値視点

## —中国・唐山震災遺跡群を事例として—

王 金偉

北京第二外国語学院旅遊管理学院 講師

### 1. はじめに

「負の遺産」は自然災害、あるいは人的災害によって残された貴重な遺産である。これらは経験者が災害に対する記憶を留めるという意義を持つのみならず、その後の世代の防災意識を高める教材としての価値を有する (Logan & Reeves 2008)。そのため、近年、世界中で多くの「負の遺産」が観光資源として保存・活用されるようになってきている。学術界では、通常「負の遺産」の観光活用はダーク・ツーリズムと名付けられている (Lennon & Foley 2000)。また、ダーク・ツーリズムは欧米マスコミや学界で盛んに注目されるようになってきている (Stone 2006)。

一部の学者によれば、「負の遺産」に係わるダーク・ツーリズムは犠牲者を追悼するための重要な旅行形式の一つであり、また過去の人類が犯した過ちを省みるきっかけとして、災害や悲劇を二度と繰り返さないための教材としても重要な役割がある (Strange & Kempa 2003; Braithwaite & Lee 2006; Lee, *et al.* 2012; Coats & Ferguson 2013)。また、ダーク・ツーリズムは観光客に死と向き合う体験の機会を提供し、自己の生命と生活について改めて考え直す機会を与え、命と健康、生活の大切さを自覚することを促す (Seaton 1996; Stone 2006; Stone & Sharpley 2008)。

また、ダーク・ツーリズムから観光客が受け取る恩恵 (benefits) については、Best (2007) と Kang, *et al.* (2012) により、ダーク・ツーリズムを通じ、観光客は知識を豊かにし、親戚や友人との繋がりを深め (社交や交流の場)、休暇や娯楽性 (リラックス) を得、歴史に対する責任意識を強めることができるとされる。

以上のとおり、「負の遺産」におけるダーク・ツーリズムは、観光客に多くの恩恵をもたらすものであることがわかる。同時に、観光客の体験を深く分析することは、「負の遺産」の積極的・発展的な価値を引き出すことができ、「負の遺産」の活性化と観光マネジメントにとって重要な意義がある。しかし、現在ダーク・ツーリズムによって観光客の受ける恩恵 (tourist benefits=それを受け止める観光客側の「観光客の価値視点」) についての研究はまだ少ない。

そこで本稿では、中国の重要な「負の遺産」としての唐山震災遺跡群を事例に取り上げ、インターネット上に掲載された観光客のブログと旅行記 (travel notes) を対象とし、グラウンデッド・セオリー・アプローチ (以下、GTA) を用いた観光客の受ける恩恵について

の分析を試みる。この研究を通じ、唐山震災遺跡群その他のダーク・ツーリズムにおける観光客の価値視点と観光の活性化管理の分析手法を提供することができるものとする。

## 2. 研究対象地域—中国・唐山震災遺跡群

唐山市は中国河北省の東部、華北平原の北東部に位置し、南側を渤海と接し、北京と天津に近い重工業都市である。1976年7月28日、唐山市にマグニチュード7.8の大地震が起こった。これは20世紀に中国で最も大きな被害を出した地震で、死傷者数は24万人を超え、被害金額は莫大で直接経済損失は30億人民元に上り、当時有数の工業都市であった唐山市は壊滅状態となった。

この地震による被害の記憶を保存し、犠牲者を追悼するために、数多くの震災遺構や遺物が保存されている。さらに、地方政府によって「唐山地震遺跡記念公園」、「唐山抗震記念館」、「唐山抗震記念碑」などの記念施設が設けられた。現在、これらの震災遺跡と記念施設は唐山大震災の遺跡群として中国の被災記念、防災教育、地震研究の重要な場所となり、毎年数多くの観光客が来訪しており、唐山震災遺跡群はすでに中国のダーク・ツーリズムの「有名観光地」となっている。

## 3. 研究方法

本研究は主に唐山震災遺跡群を訪ねた観光客のブログとインターネットでの旅行記を対象とし、GTAで観光客の価値視点を導き出す。まず、筆者は2016年12月26日に「馬蜂窩」、「新浪博客」をはじめとする中国の10件のブログとトラベルウェブサイトから「唐山震災遺跡」をキーワードとして分析対象のブログと旅行記を検索した。そして、内容を通読して本研究に合致する内容を選び出した。ブログと旅行記を選ぶ基準としては、内容に偏りがなく、情報に誤りや偽りがなく、記述が明確であることとし、最終的に94本を選び出して今回の分析の対象とした（表1参照）。

GTAの研究ステップに基づき、コーディング分析をする前に94本のブログと旅行記からランダムに80本を選んでコーディング分析と理論モデル作りに利用し、残りの14本でコーディング後の理論的飽和を検証することとした（4.4「理論的飽和の検証」参照）。

表1 本稿が選んだブログ・旅行記の基本情報

| 番号 | ウェブサイトの出典 HP                       | ブログ・旅行記の本数 | 備考                             |
|----|------------------------------------|------------|--------------------------------|
| 1  | 馬蜂窩<br>(http://www.mafengwo.cn)    | 28         | 馬蜂窩は観光サービスプラットフォーム             |
| 2  | 新浪博客<br>(http://blog.sina.com.cn)  | 21         | 新浪博客は中国最大のブログサイト               |
| 3  | 網易博客<br>(http://blog.163.com.cn)   | 13         | 網易博客はブログサイト                    |
| 4  | 携程旅行網<br>(http://www.ctrip.com.cn) | 14         | 携程旅行網は旅行サービスウェブサイト             |
| 5  | 去哪儿網<br>(https://www.qunar.com.cn) | 5          | 去哪儿網は旅行のウェブサイト                 |
| 6  | 芸龍旅行網<br>(http://www.elong.com.cn) | 5          | 芸龍旅行網は観光サービスプロバイダー             |
| 7  | 驢媽媽旅遊網<br>(http://www.lv mama.com) | 2          | 驢媽媽旅遊網は総合旅行ウェブサイト              |
| 8  | 天涯論壇 (http://bbs.tianya.cn)        | 2          | 天涯論壇は中国有名なインターネットコミュニティ        |
| 9  | 同程旅遊 (http://www.ly.com)           | 2          | 同程旅遊はリラックス旅行のオンラインサービスプラットフォーム |
| 10 | 途牛旅遊網<br>(http://www.tuniu.com)    | 2          | 途牛旅遊網は旅行オンラインプラットフォーム          |

## 4. GTA を用いたブログと旅行記の分析

### 4.1 オープン・コーディング

オープン・コーディングにおいては、収集した資料（テキスト）を細かく切片化し、キーワードを含む短いセンテンスに分ける。また、切片化されたデータを付きあわせて、共通した意味のものをまとめ、内容を適切に表現する簡潔な「概念名」をつける。次に、似た「概念」同士を集め、上位概念となるカテゴリーを作り名前をつける（Strauss & Corbin 1990）。

オープン・コーディングを通じ、本研究では 53 個のラベルと 23 個のカテゴリー（表 2，表 3）を取り出した。23 個のカテゴリーは、「死傷状況」、「財産損害状況」、「環境破壊状況」、「社会文化の損害状況」、「震災復興状況」、「唐山の新旧状況対比」、「地震科学知識」、「防災減災知識」、「震災遺跡の基本状況」、「震災遺跡の価値」、「震災前の記憶」、「被災後の記憶」、「自然への畏敬」、「人間の無力さ」、「団結の力」、「克服する力」、「回復への姿勢」、「愛国心」、「中国共産党への信頼感」、「中国人民解放军への信頼感」、「生活重視」、「生命の尊重」、「死と向き合う」の各項目である。

表2 オープン・コーディング分析の例

| テキスト                                                                                                                                                 | 概念名             | カテゴリー  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------|
| 車を降りたらすぐ5組13面の記念壁です。その上に1976年唐山大地震で遭難した24万人の同胞の名前が刻まれており、驚きました。                                                                                      | 死亡状況            | 死傷状況   |
| 1976年7月28日に起こった唐山大地震…負傷者数は11万人を超え、一家全滅の家庭が7,000所帯以上です。                                                                                               | けが・障害状況<br>死亡状況 |        |
| 私は記念広場の西側の元唐山自動車工場鉄鋼生産職場の3つの震災遺跡を詳しく見学しました。元々高さ35メートルあった煙突が三つに折れて、今にも倒れそうに立っています。コンクリート造の工場フレームは倒れていませんが、柱はゆがんでおり、壁は全部倒れました。周りのコンクリート倉庫は全部斜めになっています。 | 建物被災状況          | 財産損失状況 |
| 直接経済損失は30億人民元。この百万人を超える工業都市は一瞬でぺちゃんこになってしまいました。                                                                                                      | 財産損失状況          |        |

表3 オープン・コーディングのカテゴリー分析の結果

| 番号 | ラベル                                              | カテゴリー        |
|----|--------------------------------------------------|--------------|
| 1  | 死亡状況, けが・障害状況                                    | 死傷状況         |
| 2  | 建物被災状況, 財産損失状況                                   | 財産損失状況       |
| 3  | 自然環境破壊, 震災後の極端な天気状況                              | 環境破壊状況       |
| 4  | 住民の心的外傷 (心理的なダメージ)                               | 社会文化の損害状況    |
| 5  | 震災支援, 復興過程                                       | 震災復興状況       |
| 6  | 復興・再生した唐山の姿, 震災後の唐山の発展状況, 新旧の違い (対比)             | 唐山の新旧状況対比    |
| 7  | 地震に関する知識                                         | 地震科学知識       |
| 8  | 防災方法, 地震予測観測設備                                   | 防災減災知識       |
| 9  | 震災遺跡の規模 (面積・数), 震災遺跡の地理的分布, 震災遺跡の保存過程, 震災遺跡の保全状況 | 震災遺跡の基本状況    |
| 10 | 震災遺跡の科学研究価値, 震災遺跡の教育価値, 震災遺跡を記念する意義, 震災遺跡の経済価値   | 震災遺跡の価値      |
| 11 | 震災前の生活, 震災後の唐山の状況                                | 震災前の記憶       |
| 12 | 被災状況, 救援現場, 被災のシーン (情景), 被災後の生活記憶                | 被災後の記憶       |
| 13 | 自然災害は不可抗力, 大自然の力が強い                              | 自然への畏敬       |
| 14 | (自然に比べて) 人間の小ささ, 人間の無力さ                          | 人間の無力さ       |
| 15 | 団結の力, 中華民族の一致協力                                  | 団結の力         |
| 16 | 困難を克服する力, 強い意志                                   | 克服する力        |
| 17 | 向上心, ポジティブ (楽観的)                                 | 回復への姿勢       |
| 18 | 国の偉大さ, 国は確かな後ろ盾, 国への愛                            | 愛国心          |
| 19 | 中国共産党の偉大さ, 中国共産党への支持                             | 中国共産党への信頼感   |
| 20 | 中国人民解放軍の援助, 中国人民解放軍の強さ, 中国人民解放軍への愛               | 中国人民解放軍への信頼感 |
| 21 | 現在の生活の重視, 未来の生活への夢と希望                            | 生活重視         |
| 22 | いのちの大切さ, 人生の価値の発見                                | 生命の尊重        |
| 23 | 死の突然性, 死を恐れない                                    | 死と向き合う       |

## 4.2 アクシャル・コーディング

アクシャル・コーディングは主にオープン・コーディングでつけたカテゴリー間の関連付けを深めたうえで、次元を階層的に組織化する。同時に、サブカテゴリーとメインカテゴリーを区分し作成する。また、メインカテゴリーをオープン・コーディングで使った資料(テキスト)に戻して対照的に再検討し、その妥当性を検証する (Strauss & Corbin 1990)。

本稿では、アクシャル・コーディングの分析により、オープン・コーディングで抽出した 23 個のカテゴリーを、「被災状況の把握」、「復興状況の把握」、「防災減災教育」、「震災遺跡の解明」、「災難に関する記憶の記録」、「人間と自然の関係の理解」、「震災を克服する精神」、「愛国主義教育」、「いのちの教育」など 9 つのサブカテゴリーに集約することにした。さらに、「知的価値視点」と「感情的価値視点」の 2 つのメインカテゴリーにまとめた。これらのカテゴリーの従属関係は表 4 に示した。

表 4 アクシャル・コーディング分析の結果

| オープン・コーディングの<br>カテゴリー | アクシャル・コーディングのカテゴリー |          |
|-----------------------|--------------------|----------|
|                       | サブカテゴリー            | メインカテゴリー |
| 死傷状況                  | 被災状況の把握            | 知的価値視点   |
| 財産損失状況                |                    |          |
| 環境破壊状況                |                    |          |
| 社会文化の損害状況             |                    |          |
| 震災復興状況                | 復興状況の把握            |          |
| 唐山の新旧状況対比             |                    |          |
| 地震科学知識                | 防災減災教育             |          |
| 防災減災知識                |                    |          |
| 震災遺跡の基本状況             | 震災遺跡の解明            |          |
| 震災遺跡の価値               |                    |          |
| 震災前の記憶                | 災難に関する記憶の記録        | 感情的価値視点  |
| 被災後の記憶                |                    |          |
| 自然への畏敬                | 人間と自然の関係の理解        |          |
| 人間の無力さ                |                    |          |
| 団結の力                  | 震災を克服する精神          |          |
| 克服する力                 |                    |          |
| 回復への姿勢                |                    |          |
| 愛国心                   | 愛国主義教育             |          |
| 中国共産党への信頼感            |                    |          |
| 中国人民解放军への信頼感          |                    |          |
| 生活重視                  | いのちの教育             |          |
| 生命の尊重                 |                    |          |
| 死と向き合う                |                    |          |

## 4.3 セレクティブ・コーディング

セレクティブ・コーディングはメインカテゴリーの上位概念としてのコアカテゴリーを設定する作業で、また、コアカテゴリーとメインカテゴリー、およびその他のカテゴリーとの関連性を明らかにする作業である。この時、これらの関係性を簡潔に説明するストー

リーライン (story line) を作成し、現象や事象を総括的に描写する。ストーリーラインを完成した後、社会現象を説明する理論モデルを完成し精緻化する (Strauss & Corbin 1990)。

本稿では、ブログと旅行記とメインカテゴリー、サブカテゴリーの対象と分析により、「観光客の受ける恩恵」をコアカテゴリーとし、ストーリーラインを作った。まず、観光客の「負の遺産」での体験は感情的要素を含むと同時に、知的要素も含む。また、これらの感情的要素と知的要素は相互に影響しながら、観光客に多くの恩恵をもたらす。さらに、知的価値視点と感情的価値視点での各条件は独立ではなく、相互に影響し合っている。なお、この知的価値視点と感情的価値視点との相互作用は動的プロセスであり、観光過程において継続的に作用している。

具体的には、観光時に観光客は「負の遺産」に対する「認識」がその人の「感情」に影響し、「感情的価値視点」を形成する。例えば、観光客は唐山地震遺跡群を見学することで、唐山大震災と震災遺跡に対するある程度の認識を持つ（被災状況を把握する、震災遺跡を知る）、すなわち、「知的価値視点」である。同時に、この認識を持つことが観光客の感情の基になり、「感情的価値視点」が形成される（例えば、自然に対する畏敬の念を持つようになるなど）。

同様に、観光客の「感情」はその人の「知的認識」にも影響する。観光客はよく自分の「感情」を震災遺構、遺物、記念碑などに投影し、自分の「知的認識」を構築あるいは再構築している。それは本研究が収集したブログと旅行記からも汲み取れる。例えば、見学する際に生まれる「生活重視」や「生命の尊重」などの感情から、知的価値視点としての「防災減災知識」への関心が高まることなどがあり、これは感情的価値視点から知的価値視点に及ぼす作用の現れといえる。

以上に述べたように、「ストーリーライン」に基づき、本研究は図1のように観光客がメインカテゴリーの二つの価値視点から受けた恩恵を表す理論モデルができる。

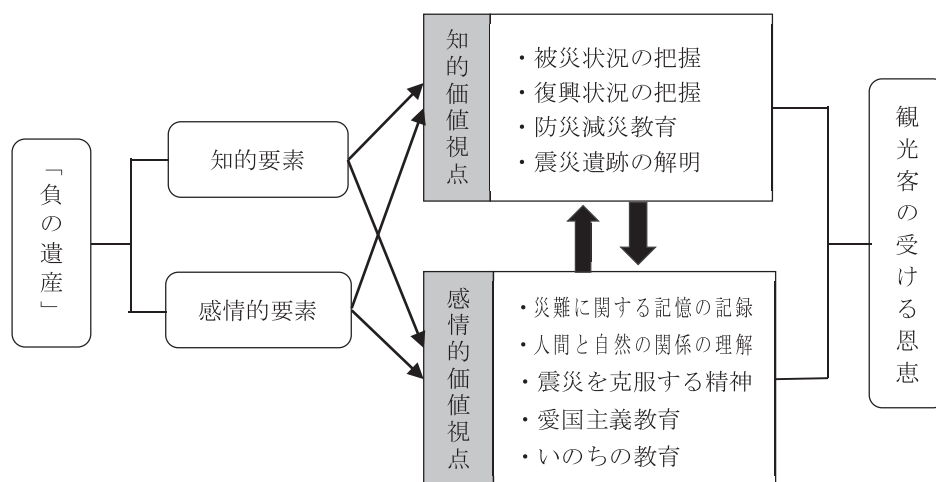


図1 「負の遺産」に求められる観光客の価値視点と恩恵

#### 4.4 理論的飽和の検証

理論的飽和の検証は、前述の作業で採択したカテゴリーやその関係性の完成度を検証するための部分である。現存カテゴリーはすべての資料（テキスト）をカバーしていること、すなわち、すべての現象が説明できるか否かを保証するための作業である（Charmaz 2006）。

そこで「3. 研究方法」で予め触れたとおり、検証用にとっておいた 14 本のブログと旅行記で検証を行ったところ、新しいカテゴリーは現れず、カテゴリー間に新たな従属関係は現れなかった。これで、本論文が設定したモデルは「飽和」（全ての事象を完全網羅）していると判断できる。

#### 5. おわりに

本稿では、GTA を用い、唐山震災遺跡群を訪ねた観光客のブログと旅行記の分析を通じて、観光客の受ける恩恵は主に「感情的価値視点」と「知的価値視点」によることがわかった。具体的にみると、観光客の価値視点は「被災状況の把握」、「復興状況の把握」、「防災減災教育」、「震災遺跡の解明」、「災害に関する記憶の記録」、「人間と自然の関係の理解」、「震災を克服する精神」、「愛国主義教育」、「いのちの教育」など 9 つのサブカテゴリーに分けることができた。

これはある程度、Best (2007) と Kang, *et al.* (2012) が提起したダーク・ツーリズムにおける観光客の受ける恩恵が、知識の取得、歴史責任感の価値視点を含むことを裏付けている。しかし、本研究は Best (2007) と Kang, *et al.* (2012) が指摘した親戚や友人との繋がりや関係を深め（社交や交流の場）、「休暇や娯楽性」（リラックス）に関する価値視点を見つけることはできなかった。

その理由は、中国の伝統的な価値観が「社交や交流の場」や「休暇や娯楽性」を「災害」や「悲しみ」と相反するものとして捉える考えに原因するものと考えられる。つまり、「負の遺産」に「社交」や「休暇や娯楽性」を追求することは伝統的な倫理道徳に反し、被災者とその親族に失礼に当たる行為であるとの認識がある。このことは本研究で分析対象として取り上げたブログと旅行記から「社交や交流の場」や「休暇や娯楽性」に関するキーワードを見つけることができなかった理由にもなる。

同時に重視すべきは、「負の遺産」が災害遺跡や記念施設で構成される空間的な存在だけでなく、情緒的な面も継承していることである。よって、ダーク・ツーリズムは観光客に知的恩恵のみならず感情的恩恵をもたらし、災害に関する記憶を心に留める役割を果たしている。

以上、本研究は唐山地震遺跡群を例として、ダーク・ツーリズムによる観光客の受ける恩恵や価値視点について分析を試みた。ただし、収集したブログと旅行記の数が限られていることと、記述の内容は主にインターネットからのものであり、実際のアンケートや取材などのように検証性のあるデータではないことを断っておく必要がある。よって、今後

の研究では、アンケート調査などの手法を合わせて利用し、「負の遺産」におけるダーク・ツーリズムによる観光客の価値視点についてさらに研究を深めていきたい。

## 謝 辞

本研究は中国・「北京市社会科学基金研究基地項目」の科研費（16JDGLC003）助成を受けたものである。

## 文 献

Best, M.

2007 Norfolk island: Thanatourism, history and visitor emotions. *Shima: The International Journal of Research into Island Cultures*, 1(2): 30–48.

Braithwaite, R. W., and Lee Y. L.

2006 Dark tourism, hate and reconciliation: The Sandakan experience. *IIPT Occasional Paper No.8*, <http://iipt.org/educators/OccPap08.pdf> (accessed 9 January 2017).

Charmaz, K.

2006 *Constructing Grounded Theory: A Practical Guide through Qualitative*. SAGE Publications Ltd.

Coats, A., and Ferguson, S.

2013 Rubbernecking or rejuvenation: Post earthquake perceptions and the implications for business practice in a dark tourism context. *Journal of Research for Consumers*, (23): 32-65.

Kang, E. J., Scott, N., and Ballantyne, R.

2012 Benefits of visiting a 'dark tourism' site: The case of the Jeju April 3rd Peace Park, Korea. *Tourism Management*, 33(2): 257-265.

Lee, C. K., Bendle, L. J., Yoon, Y. S., and Kim, M. J.

2012 Thanatourism or peace tourism: perceived value at a North Korean resort from an indigenous perspective. *International Journal of Tourism Research*, 14(1): 71-90.

Lennon, J., and Foley, M.

2000 *Dark tourism: The Attraction of Death and Disaster*. Continuum.

Logan, W. and Reeves, K.

2008 *Places of Pain and Shame: Dealing with 'Difficult Heritage'*. Routledge.

Seaton, A. V.

1996 Guided by the dark: From thanatopsis to thanatourism. *International Journal of Heritage Studies*, 2(4): 234-244.

Stone, P., and Sharpley, R.

- 2008 Consuming dark tourism: A thanatological perspective. *Annals of Tourism Research*, 35(2): 574-595.
- Stone, P. R.
- 2006 A dark tourism spectrum: Towards a typology of death and macabre related tourist sites, attractions and exhibitions. *Tourism*, 54(2): 145-160.
- Strange, C., and Kempa, M.
- 2003 Shades of dark tourism - Alcatraz and Robben Island. *Annals of Tourism Research*, 30(2): 386-405.
- Strauss, A.
- 1990 *Basics of Qualitative Research: Grounded Theory Procedures and Techniques*. SAGE Publications, Inc.